

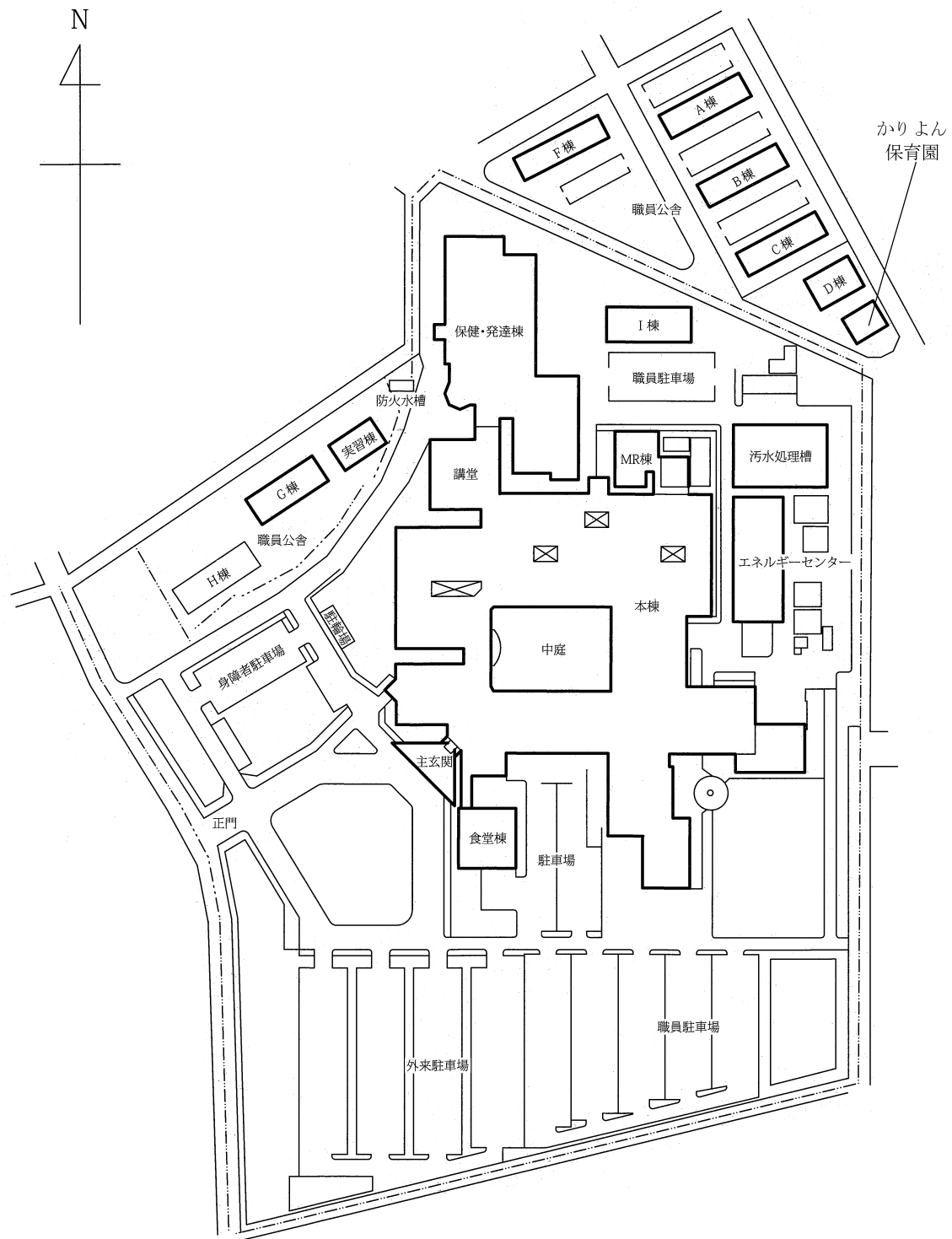


埼玉県立小児医療センターの概要

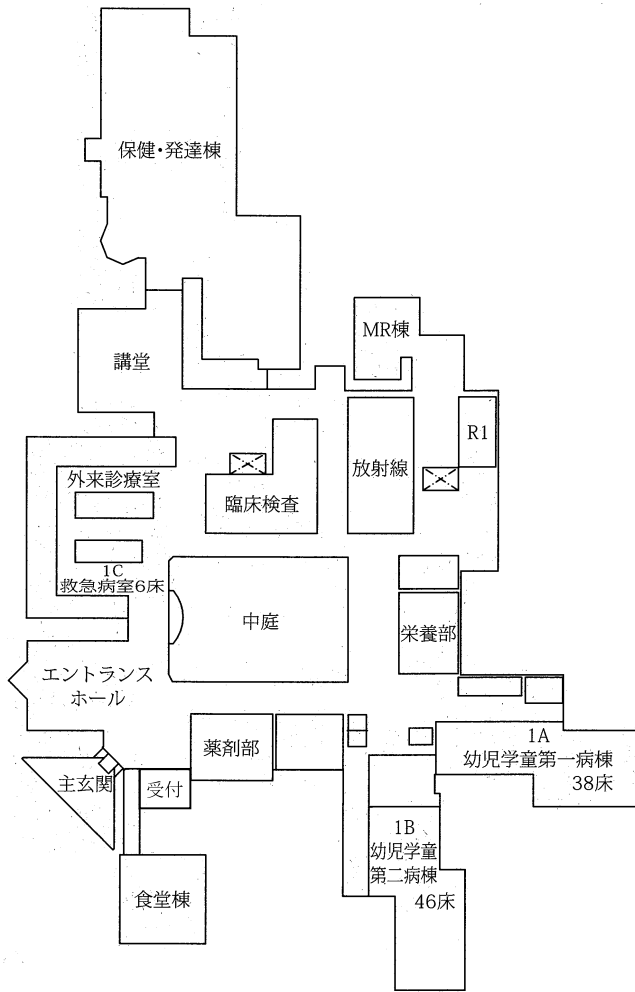
(平成24年4月1日現在)

所在地	埼玉県さいたま市岩槻区大字馬込2100番地 TEL 048(758)1811(代表)
敷地面積	72,541 m ² (公舎敷地を含む)
構造	鉄筋コンクリート4階建てほか
延べ面積	26,692.04 m ²
病床数	一般病床 300床
診療科目	小児科 (総合診療 未熟児新生児 代謝・内分泌 腎臓 感染・免疫 血液・腫瘍 遺伝) 精神科 神経科 循環器科 アレルギー科 小児外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科 眼科 耳鼻いんこう科 リハビリテーション科 放射線科 麻酔科 小児歯科
紹介等	医師による紹介制
保健発達部	
保健外来	予防接種外来 国際保健外来 心臓検診外来 生活アレルギー外来 夜尿・遺尿外来 腎臓検診外来 成長発育外来 遺伝外来 精神保健外来
発達外来	スクリーニング外来 アセスメント外来 発達外来 装具診外来
紹介等	病院、診療所、保健所、学校などからの紹介制

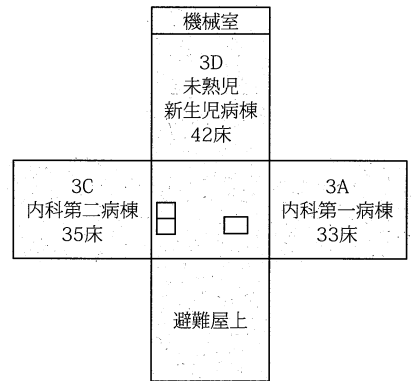
埼玉県立小児医療センター配置図



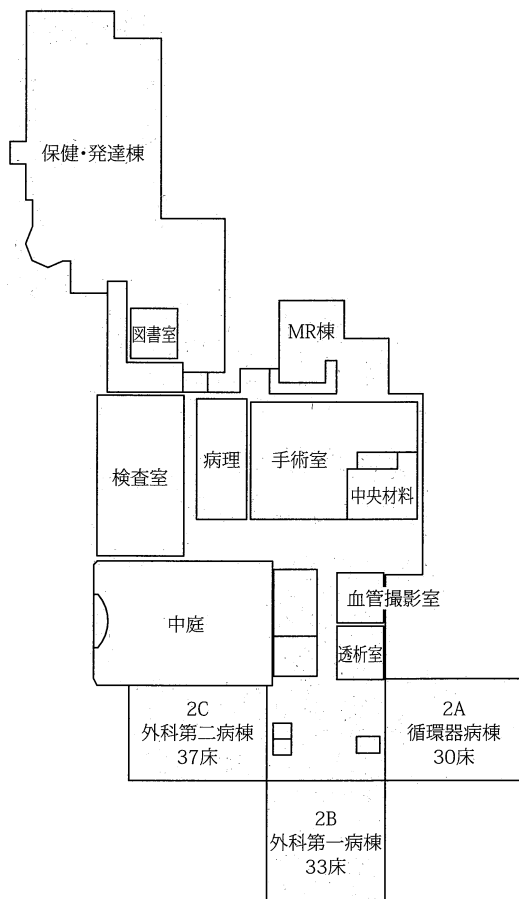
1階
90床



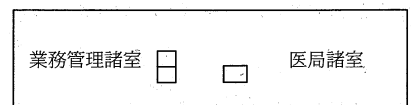
3階
110床



2階
100床



4階



(平成24年3月31日現在)

はじめに

病院長 中 村 讓

1. 23年度の職員の状況

1) 医師

平成23年4月の新年度時点で、総合診療科・皮膚科医師が各1名でマイナス2名でありました。長らく近隣の先生に御迷惑をおかけしている常勤医による皮膚科の外来はまだ再開できておりません。週1回半日の非常勤医による、入院患者さんに限定した外来でありました。平成24年4月からは複数の大学の医局の応援を頂き、通院中の患者さんを中心に初診外来を再開の予定であります。更に常勤医の獲得に努力いたします。総合診療科は常勤が欠員の状況の中、後期研修医や臨床研修医の力を借りながら頑張ってくれました。また平成24年度からは経験豊富な常勤医が赴任予定であります。年度途中で問題となりましたのは、麻酔科医の退職でありました。平成23年9月から5カ月の間に、常勤医5名のうち3名の退職者がありましたが、残った常勤医とレジデント・応援医師の努力で過去最高の1869件の年間手術件数を達成してくれました。しかしながら平成24年度は手術制限も避けられないものと考えます。現在パート医師の採用や常勤医の獲得に努力しておりますが、解決には時間を要するものと思います。

2) 看護師

看護師の充足状況につき説明いたします。22年度4月は欠員10名でスタートしました。23年度は試験の不合格者もいたのでマイナス1名ではありましたが、欠員は解消されてスタートしました。しかしながら病休、産休・育休の方は看護部付けで常時30名弱おり、現場は常に人手が足りない状態に変わりがありません。来年度は、途中でのマイナスを加味してスタート時には過剰に配置していただくという人員要求をしておりますが、思うような応募が得られず県立病院全体として十分な確保はできておらず、一層の確保戦略が必要であります。

3) その他

コメディカルも年度途中で退職者が出て、欠員のある部門が3部門ありました。

4) 病休者

メンタルヘルスなどで常に数名の病欠者がございます。職員数の少ない部門におきましては業務に大きな影響が出るため代替職員の採用募集をいたしますが、職種によりましては県の時給が世の中の標準を下回っていることもあり応募がない部門もあります。県における時給の変更等は我々が考えるより難しいようであります。

2. 23年度診療状況

平成22年11月に、一次診療を地域の一次診療所に誘導する事業を近隣の群市医師会の先生のアドバイスを受けて実施いたしましたので、21年度の救急患者は11000人台だったものが22年度は7,600人、23年度は4440人とかなり減りました。しかしながら本来の重症急患の受け入れは増加しております。また一次診療所をご紹介した患者さんであります。必ずしも受診しておられないようで、近隣の一次診療医療機関が混雑するなどの御迷惑はおかけしていないようです。少しずつ患者さんのご理解も得られるようになってきております。

患者数は入院・外来共に3%ほど減少いたしました。単価の上昇により全体の稼働額は微増いたしました。

患者さんの転帰ですが、昨年度は5496名の退院のうち、死亡退院は41名でした。その前の年は38名の死亡ですので、大きな差はありません。昨年度は剖検数が16名で、一昨年の21名（剖検率が5割以上）には及びませんでしたが、ご家族のご理解に感謝いたします。

それから、22年度7月から開始しております地域支援、1次2次の救急輪番支援事業のご報告いたします。初年度は深谷赤十字病院と春日部市立病院に派遣しました。23年度からは深谷赤十字病院に集約して週2日支援しております。これに携わる人員が非常勤（レジデント）に限られており毎年の人数が不確定のため、地域の先生、県民に御迷惑をかけるので心苦しい部分であります。その他1次診療所支援としましては、春日部とさいたま市に伺っております。

最後に、入院患者さんの地域性につきご報告いたします。

上尾市が6.8%、川口市6.1%、さいたま市25.2%（見沼区4.8%、岩槻区・西区が3.6%）、春日部市4.9%、久喜市4.41%、北区3.4%、加須市3.3%、県外は千葉県が3.2%、全体としては県外から8.3%の患者がお見えになっていました。

3. 新病院建設・移転問題

27年度の耐震化に向けて、移転建て替えの方向性は22年度末に検討されておりましたが、6月にさいたま赤十字病院との一体的医療拠点整備とさいたま新都心へ移転が発表されました。医療拠点としての整備内容は、①さいたま赤十字病院の産科と連携した県内二つ目の総合周産期母子センターの整備 ②小児集中治療室（PICU）を整備し、小児救急医療の充実 ③感染症対応病床の整備 ④患者さんも医療者も集まる施設等を骨子として、長年東京に一部依存してきた小児・周産期医療体制からの脱却を目指しています。しかしながら患者さんのご家族や地域の方々から、現在の郊外型から都市型の病院に転換するために、車通院の不便さや周辺環境問題、現在地周辺の救急医療体制の後退への不安等の問題提起がされております。特に医療資源の少ない埼玉においては、全県的医療体制整備と地域医療整備の両立が大変難しい問題であると痛感しています。

病院の理念

For the future, for the children

こどもたちの未来は私たちの未来

基本方針

1. 質が高く、信頼される医療を行います。

根拠にもとづいた高度で専門的な医療を行います。
地域医療機関での対応が困難な医療を行います。
地域が安心できる小児救急医療を支援します。
安全性を優先した医療を行います。

2. 地域との連携のもと小児保健、発達支援を推進します。

子どもの健康増進、病気の予防、早期発見ならびに発達支援に取り組みます。
地域の医療、保健ならびに療育機関への支援、情報提供を行います。
小児医療、保健に携わるスタッフの育成を支援します。

3. 発育、発達にあわせた良質な環境を提供します。

子どもの生活の場としての良質な医療環境を保障します。
子どもの年齢に応じた遊びや教育の機会を確保します。
ご家族のための宿泊を援助します。

4. 子どもの権利を尊重します。

子どもの権利を平等に尊重します。
十分な情報提供と説明を行い、同意のもとでの医療を行います。
身体的にも、精神的にも子どもに負担の少ない医療を心がけます。
入院期間を短縮し、面会時間をできるだけ多くします。
個人情報を守られる権利、診療内容を知る権利(診療録開示)、
他の医療機関の意見を求める権利(セカンドオピニオン)を保障します。

目 次

総 括 編

第1章 沿 革

- 1 小児医療センター建設までの経緯 1
- 2 小児医療センター開院から今日まで 1
- 3 医療法に定める届出承認事項 2
- 4 健康保険法に定める届出事項（施設基準等） 5
- 5 専門医教育施設等の認定（更新状況） 7

第2章 施 設

- 1 敷地及び建物 9
- 2 附属設備 9
- 3 主要備品 11
- 4 小児医療センター医療情報システム 13

第3章 組織・運営

- 1 機 構 14
- 2 病棟構成 16
- 3 診療制度 16
- 4 会計制度 16
- 5 運営協議会 16
- 6 地域医療との連携 17
- 7 センター内会議及び委員会 19
- 8 特別支援学校との連携 19

統 計 編

第1章 診療状況

- 1 総 括 21
- 2 外 来 25
- 3 入 院 27
- 4 救 急 30
- 5 手 術 31
- 6 放 射 線 32
- 7 臨床検査 33
- 8 病 理 34
- 9 薬 剤 34
- 10 栄 養 35
- 11 臨床工学 36

第2章 経営状況

- 1 経営分析に関する調（平成23年度） 37
- 2 収益的収入及び支出（平成23年度） 37
- 3 資本的収入及び支出（平成23年度） 38
- 4 貸借対照表（平成23年度） 38

業 務 編

第1章 診療各科	
〈入院患者疾患別内訳〉	39
〈内科系〉	
総合診療科	41
未熟児新生児科	44
代謝・内分泌科	46
腎臓科	47
感染免疫・アレルギー科	48
血液・腫瘍科	50
遺伝科	52
循環器科	54
神経科	55
精神科	57
放射線科	58
〈外科系〉	
小児外科	60
心臓血管外科	62
脳神経外科	63
整形外科・リハビリテーション科	65
形成外科	66
泌尿器科	68
耳鼻咽喉科	69
眼科	70
麻酔科	72
小児歯科	73
第2章 診療技術	
1 放射線技術部門	75
2 臨床検査部門	76
3 病理診断科	77
4 薬剤部門	78
5 栄養部門	79
6 臨床工学部門	80
第3章 看護	82
第4章 医療福祉相談	93
第5章 病歴	95
第6章 図書	96
第7章 小児虐待対応チーム (Child Abuse Action Team)	97
第8章 医療安全管理室	99
第9章 臨床研修委員会	109
第10章 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team ; NST)	110
第11章 呼吸療法サポートチーム (Respiratory care Support Team ; RST)	111

保健発達部門編

第1章 概要・機能	113
第2章 小児保健業務	116
1 地域保健業務	116
2 保健教育活動	116
3 保健予防業務	117
第3章 外来業務	118
1 総括	118
2 保健外来	119
3 発達外来	125
4 多職種プログラム外来	128
5 コメディカル業務	129

業績編

第1章 学会発表及び講演	135
第2章 誌上発表	159
第3章 受託研究	171
第4章 他機関との共同研究	172
第5章 委員会（プロジェクト等）の役職	173
第6章 院内研究費による研究	175
第7章 クリニカルカンファレンス記録	177

トピックス編

1 表彰	179
2 ボランティア活動	180
3 「養護の会」各種イベント	180
4 院内保育	181